



多摩市立瓜生小学校

瓜生小だより

平成30年度 第9号

平成30年11月30日

想いをかたちに 心をこめて

校長 吉田 正行

体育館で展示作品の鑑賞をしていた時のことです。自分とは違う学年の作品の前で立ち止まり、食い入るように見ている子がいました。声をかけると、「この絵の色がとてもきれいだなあと思って見ていました」とのことでした。同じ学校で生活する仲間の表現が心に響き、感動して見つめていたのでしょう。

11月9日（金）、10日（土）に本校では作品展を実施しました。魔法をかけたように、体育館が子供たちの作品で、素晴らしい美術館に変わりました。一人一人の作品が個性的で、その子なりの想いが表現されているとともに、それが学年を超えて一同に展示されることで一体感を味わうことができました。テーマである「想いをかたちに 心をこめて」が十分実現できたと確信しています。全作品を鑑賞し、瓜生小学校の子供たちの想像力とパワーは本当に素晴らしいなど、改めて感心させられました。作品だけでなく、作っている過程で見せる表情や真剣なまなざしも画像で紹介しましたが、その様子もとてもすてきでした。

図画工作科の学習は、児童が感じたことや想像したことを造形的に表す表現と、作品からそのよさや美しさなどを感じ取り、見方を深める鑑賞の二つの活動によって行われます。この表現と鑑賞はそれぞれに独立したものではなく、お互いに働きかけたり、働きかけられたりしながら、一体的に補い合って高まっていく活動です。日頃の図工学習だけでなく、作品展等で友達や家族に作品を認められることによってさらに満足し、形や色に対する好奇心、材料や用具に対する関心やつくりだす意欲になります。その意欲が生活や社会に主体的にかかわる態度を育て、伝統を継承し、文化や芸術を創造しようとする豊かな心を育てることにつながるのだと思います。教職員も子供たちの図工や家庭科の作品を効果的に展示するために夜遅くまで作業しました。

また、空間ワークショップでは、角材と輪ゴムだけで自分たちが設計した建物を仲間と協力して作り上げる貴重な体験をしました。何よりも当日、天候にも恵まれ、多くの方々に秋の一日を楽しんでいただけたこと、心温まる作品展になりましたことを心からお礼申し上げます。本当にありがとうございます。師走に入りますがよろしくお願いたします。



全校児童の力が並んだ作品展



建築家の先生との空間ワークショップ

【生活習慣のふりかえり 11月】

□に各自のふりかえりを記入する

あいさつ へんじ
挨拶・返事

自分から気持ちよい挨拶や返事をしましょう。……………

やさしい言葉

優しく心が温まる言葉づかいで話しましょう。……………

がくしゅう どくしょ
学習・読書

家庭での学習や読書の時間を決めて取り組みましょう。…

しんせつ こうどう
親切な行動

親切な行動、助け合いを毎日欠かさず実行しましょう。…



◎…よくできた ○…ときどきできた △…あまりできなかった

◆各自の一か月のふりかえりをご家庭でも話題にさせていただきようお願いたします。